

やってみよう！ 「伝える」 「繋げる」 「備える」 仙台

その時どうする？

仙台駅周辺の外国人向け帰宅困難者対応



仙台駅周辺帰宅困難者対策連絡協議会 会長 渡邊 博之 さん

帰宅困難者対応訓練での外国人対応について、渡邊会長にお話を伺いました。

協議会では、災害発生時、外国人観光客などの帰宅困難者となった外国人に対するサポートについて検討しています。例えば、一時滞り場所や緊急退避場所などで情報を簡潔にまとめた「災害時情報多言語表示シート」を使用するなど、外国人が必要とする情報を伝えるための対策を進めています。

外国人へのサポートには、対応する担当者の理解も非常に大切です。災害時のコミュニケーションの選択肢を広げ、災害時にもつながり、支える気持ちを持って迎えすることで、少しでも力になればと考えています。

今年の対応訓練は、8月31日を予定しています。通訳の確保やタブレット端末の活用など新たな取り組みも検討しているところです。2020年のオリンピック開催を控え、外国人対応の重要性がますます増してきます。東北の玄関口となる仙台に安心しておいでいただけるよう、しっかりと取り組んでいきたいです。

日本語	日本語での会話が困難な方は、お知らせください。
英語	Please tell us if you cannot speak Japanese.
中国語	用日语对话有困难者,请通报。
韓国語	일본어 의사소통이 어려우신 분은 말씀해 주세요.

▲災害時情報多言語表示シート



▲昨年の帰宅困難者対応訓練の様子

帰宅困難者対応の詳細は以下ホームページをご覧ください。

仙台市危機管理室減災推進課

TEL	022-214-3048	FAX	022-214-8096
HP	http://www.city.sendai.jp/anzensuishin/kurashi/anken/saigaitaisaku/torikumi/kitaku.html		

お知らせ

●写真展「MIYAGI 1951～米軍医のまなざし、戦後6年の沿岸部～」開催中です

第二次世界大戦後の1951年、朝鮮戦争へ軍医として派遣されたジョージ・バトラー氏は、「キャン・マツシマ」滞在中に約2,000枚の写真を撮影しました。父が残した写真の撮影地が震災の被災地域であることに気づいた息子のアラン・バトラー氏は、当時の素朴な風景や人々の暮らしを写したそれらの写真を修復し、映っている場所や人を明らかにする活動をはじめました。今回はその中の約130点の貴重な写真を展示します。是非ご来場ください。

関連企画 「館長トーク&スライド喫茶室 仙台・石巻物語」

内容の詳細はせんだい3.11メモリアル交流館にお問い合わせください。

日時	7月21日(土) 14:00～16:00	会場	せんだい3.11メモリアル交流館内1階交流スペース
ゲスト	リチャード・ハルバーシュタット(石巻市復興まちづくり情報交流館 中央館)		
ホスト	八巻寿文(せんだい3.11メモリアル交流館)		
申込方法	電話またはメール(件名を「<仙台・石巻物語>参加申込」とし、本文に氏名・電話番号を記入)にてお申し込みください。(先着30名)		



▲会場の様子

せんだい3.11メモリアル交流館

TEL	022-390-9022	E-mail	office@sendai311-memorial.jp	HP	http://sendai311-memorial.jp/
-----	--------------	--------	--	----	---

●「せんだい防災のひろば2018」を開催します

市民の皆様が防災や減災について体験しながら学べる、幅広い年代におすすめのイベントです。「仙台防災枠組」や「防災環境都市・仙台」に関するブースも出展予定です。ご来場お待ちしております。

日時	2018年8月26日(日) 10:00～15:00	会場	仙台市勾当台公園 いこいのゾーン・野外音楽堂(仙台市青葉区本町3-9)
主催	仙台市		

仙台市危機管理室減災推進課

TEL	022-214-3109	E-mail	kks000130@city.sendai.jp
-----	--------------	--------	--



▲昨年開催時の様子



経験をつなぎ、そして未来へ
防災環境都市・仙台

発行 仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室
〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1
TEL: 022-214-8098
FAX: 022-214-8497
E-mail: mac001605@city.sendai.jp

編集 株式会社仙台紙工印刷
発行日 2018年6月

▶「えーる」は防災環境都市・仙台ホームページにも掲載しています。

<http://sendai-resilience.jp>

仙台市の取り組みから、市民の方々の取り組みまで、より詳しく紹介しています。

▶次号は10月発行予定です。

タブレットでも！
スマホでも！



この印刷物は「再生紙」を使用しています。

表紙 インタビュー
伝える 仙台

(公財) 仙台観光国際協会 (SenTIA)・せんだい留学生交流委員
東北大学工学部 機械知能・航空工学科4年生
ムハマド・ハイリル・アムリ・ビン・ナルザリさん

防災環境都市・仙台ニュースレター

「伝える」「繋げる」「備える」を応援する
防災環境都市・仙台の市民情報誌です。

仙台市では、「杜の都」の豊かな環境を活かしながら、防災力のあるまちづくり、ひとをはぐくむ「防災環境都市づくり」を進めています。「えーる」では、防災・減災や環境に関わるさまざまな分野で活躍する“ひと”に注目し、その取り組みを紹介していきます。

2018 No.8
テーマ
ともに考える
多文化防災

語学力を生かし、災害や防災の学びを伝えたい。

私は、2015年4月、マレーシアの日本語学校からの推薦で東北大学へ留学しました。大学2年生の時、日本のことをもっと学びたいと思い、岩手・宮城・福島の被災3県で活動する東北大学のボランティアサークル・SCRUM(スクラム)に留学生として初めて加入しました。母国のマレーシアは、災害がほとんど起こらないため、震災の爪痕や復興の様子を自分の目で見て、被災した方の思いを直接聞いたことは、自分にとって、とても貴重な経験でした。

SCRUM内の国際部局に所属し、被災地を訪ねたいという多くの留学生の要望に応じてスタディツアーの企画に2年近く携わりました。昨年6月に仙台市若林区荒井で実施した被災地ボランティアツアーでは、ボランティア活動を通して現地の方とたくさん交流ができました。

昨年の4月からは、SenTIAの「せんだい留学

生交流委員」として、在仙外国人と地域の方々との交流イベントの支援や、防災訓練での通訳支援などを行っています。

今年の6月上旬に行われた「外国人市民のための防災教室」では、AEDの使い方や炊き出し訓練などの通訳のサポートをしました。自分のように、災害が少ない国から来ている外国人にとって、防災について学ぶ機会があることはとても大切です、大規模な災害が起きた時、多言語での情報発信やサポートがあれば、在仙の外国人や留学生の方はとても心強いと思います。

これからも自分の語学力や経験を生かし、国際交流や外国人市民へのサポートに取り組んでいきたいです。また震災や防災に関する日本での数え切れない学びを、母国や他の国々の多くの方々にも伝えていきたいですね。



▲荒井での被災地ボランティアツアーの様子(2017年6月)



▲東北福祉大学で行った「外国人市民のための防災教室」の様子(2018年6月)

公益財団法人 仙台観光国際協会 (SenTIA)・せんだい留学生交流委員

SenTIAでは、地域の国際交流や外国人市民の支援に積極的に取り組む外国人留学生を「せんだい留学生交流委員」として委嘱している。現在、20名の留学生が防災訓練での通訳支援や多言語での情報発信、国際交流イベントなど、さまざまな事業で活躍している。
TEL 022-268-6260 ホームページ <http://int.sentia-sendai.jp/>



テーマ・インタビュー
繋げる仙台

在仙中国人女性達をつなぐ、 草の根コミュニティ活動。

東日本震災を契機に宮城県在住の中国人女性会員のグループ・聯誼会を立ち上げ、会員同士の友好・交流を深めながら、日本社会における各分野での学習をサポートする講習会やイベントを多数企画・運営している裘さんに、お話を伺いました。



▲災害時言語ボランティア研修会で
震災遺構仙台市立荒浜小学校を視察した様子（2018年2月）



▲外国人向け社会保障制度勉強会の様子（2017年3月）

宮城華僑華人女性聯誼会 会長

裘 哲一さん

一般社団法人 社会的包括サポートセンター
「よりそいホットライン」事務局

宮城華僑華人女性聯誼会 会計

李 瑩さん

震災時、在日外国人が感じた「言葉の壁」

—— 震災の経験と、防災に関する取り組みについて教えてください。

震災直後、仙台市内各地はパニック状態でした。私(裘)の住む地域にある台原森林公園の給水所も水を求めて長蛇の列ができていたり、大変なことがたくさんありました。当時は中国人のコミュニティもない中、私を支えてくれたのは近所のママ友や町内会の方でした。特に、避難情報やライフラインに関する情報など震災関連の情報交換にとっても助けられました。自分は中国から留学して以来、27年ほど日本で暮らし、日本語も大体分かりますが、来日して間もない方はとても不安だったと思います。

震災後、私は外国人向けの情報発信の通訳サポートに行ってきました。現在は私も含めて、聯誼会のメンバー数名が「仙台市災害時言語ボランティア」に登録しており、今年2月の研修会にも参加しました。

また、在日外国人支援の仕事に携わる機会があり、聞き取り調査

のサポートで石巻市と気仙沼市に住む方々と面談をしたのですが、「言葉の壁」が非常に大きかったと話す姿が印象的でした。避難広報用スピーカーで緊迫した状況が伝えられても、「津波」、「高台」など、普段使わない言葉が出てきて、どこに逃げたらいいのか、わからなかったと言います。災害時の外国人向けの情報伝達の難しさを感じました。

いつでも情報発信や相談ができるネットワークの強み

—— 聯誼会では、どんな活動をされていますか。

仙台市には、今年4月末の統計で12,233人の外国人が暮らし、国別では中国人が最も多くなっています。震災後は在日中国人のさまざまなコミュニティができ、そこでも活動していたのですが、県内に暮らす中国出身の女性のためのコミュニティを作りたいと思い、2016年10月に聯誼会を立ち上げました。会員の子ども向けには中国語講座、大人の会員向けには学校関係の文書や町内会の挨拶文、ビジネス文書の作り方など、日本語講座の上級コース等、さまざまな講習会やイベントを開催しています。

また、中国版のSNS「WeChat」を活用し、聯誼会でのイベント情報はもちろん、他の国々との交流イベント情報なども積極的に発信しています。困っていることを相談すると必ず誰かが回答してくれますし、自分に興味のあるテーマでそれぞれ情報交換するなど、会員同士の交流がとても盛んです。コミュニティ内のSNSなどの日頃からのネットワークがあることで、日常生活全般に関わる相談はもちろん、災害時の情報の一斉配信や安否確認までスピーディに対応できるのは大きな強みだと思います。

会員の皆さんから、「聯誼会があって本当に良かった。同じ国出身の仲間について相談できるのは、とても心強い」といった声をいただいています。

言葉や文化の違いを理解する、 草の根交流の継続

—— これから、どんな活動をしていきたいですか。

聯誼会の活動内容は、現在は日本語や日本文化の学習、生活相談等が多いです。また、昨年は、日中友好協会やNPOの方の協力で着物の着付け教室を行い、とても好評でした。こうした機会を重ねること、地域の方と交流し、また異なる文化への理解を深めていくことが大切だと考えています。メンバーの皆さんと、今度は防災に関わる救命処置、人工呼吸やAEDの使い方などの講習会もしたい、といった話をしています。

日本で暮らす上で、日本の制度や生活習慣、言葉のニュアンスまで掘り下げたきめ細かな理解、そして自分たちの文化も知ってもらう相互理解も重要だと思います。それはいざという時、災害時の自助・共助にも役立つはず。楽しく、仲良く、美しく、強く生きよう」をモットーに、これからも皆が充実して暮らせるような、幅の広い草の根交流活動を続けていきたいですね。

仙台市災害時言語ボランティア

仙台市のボランティア制度で、SenTIAが運営を担当。大規模災害が起こった時に、日本語での情報を得にくい人たちに「言語」の面でサポートする。地域の防災訓練での通訳や防災情報の翻訳等を行い、災害時には仙台市の要請を受けて、外国人の被災者がいる避難所の巡回や応対等のサポートをしていく。



コラム

知ってみよう！

学べる仙台

わかる／伝わる／「やさしい日本語」

弘前大学人文社会科学部社会言語学研究室ゼミ生一同

災害時、情報が届きにくい外国の方々のために仙台市が制作した「災害時情報多言語表示シート」には、外国語表示に加え「やさしい日本語」を使用しています。この「やさしい日本語」について、研究・開発などを行っている弘前大学社会言語学研究室の皆さんに、紹介していただきます。

「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい日本語のことです。

例えば、「高台に避難してください。」は「高いところへ逃げて ください」となります。この「やさしい日本語」は、災害情報を「速く」「正しく」そして「簡単に」外国人被災者へ伝えるために提案されました。



▲ゼミ生の皆さん

私たちの研究は、1995年の阪神・淡路大震災から始まり、2011年の東日本大震災を経て、2016年の熊本地震などで活用されています。震災などの災害時は、日本にいる多くの外国人も被害を受けますが、その中には、日本語も英語も十分に理解できず、必要な情報を受け取ることができない人もいます。災害が起きた直後から、外部からの援助が始まるまでの「72時間」で伝えられる情報を、被災したすべての外国人の言語へ翻訳するには時間がかかってしまい、誤訳を生んでしまいかねません。その点、「やさしい日本語」は、日本に住んでいる外国人が普段使っているような、買い物をしたりバスに乗ったりできる程度の日本語で作られているので、多くの外国人に災害時の情報を伝えることができます。また、日本語を話せる人ならば誰にでも比較的容易に作ることができるという利点もあります。

私たちは、これから先もっと多くの方が「やさしい日本語」の表現を使えるようになり、外国人の皆さんにも、減災のための「やさしい日本語」があることを知っていただきたいと思っています。

「やさしい日本語」に言い換えてみよう！

外国人に、「やさしい日本語」で「この水は無料ですよ」と声をかけます！
どの様に言いかえますか？

- ① フリー
- ② タダです
- ③ お金はいりません

正解は③「**お金はいりません**」です！

①「フリー」は英語で「無料」という意味ですが、「フリー」という言葉には「無料」だけでなく「自由な」という意味があります。②「タダです」は日本人には伝わりますが、実は外国人には伝わらない日本語です！

注意 Attention 주의 Atención	もらうことが できます	注意 Attention 주의 Atención	もらうことが できます
水を 無料で もらうことが できます お金は いりません		食べ物 無料で もらうことが できます	
(とこ)		(とこ)	
(時間) 午前・午後 時 分から 午前・午後 時 分まで		(時間) 午前・午後 時 分から 午前・午後 時 分まで	
(行った 日) 第 月 日 (行った ところ) 90		(行った 日) 第 月 日 (行った ところ) 91	

▲「やさしい日本語」を用いた掲示物の例

弘前大学人文社会科学部社会言語学研究室（研究代表:佐藤和之教授）

TEL 0172-36-2111

HP <http://human.cc.hirosakiu.ac.jp/kokugo/EJ1a.htm>

仙台市でも「やさしい日本語」を用いたラジオ番組「多言語放送局」を流しています。
是非聞いてみてください。

（公財）仙台観光国際協会HP <http://int.sentia-sendai.jp/radio/>

宮城華僑華人女性聯誼会

東日本大震災をきっかけに、2016年10月に設立。2018年2月時点の会員数は72名。「楽しく、仲良く、美しく、強く生きよう」をモットーに、宮城県在住の中国人女性会員の友好・交流を深めながら、日本語や日本文化の学習サポート及び地域住民との交流イベント等を開催。

Facebook <http://www.facebook.com/miyagichinese>

